様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３１３０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ１７３５３

研究課題名（和文）シンガポールの初等・中等教育における宗教理解の論理

研究課題名（英文）Theory of Religious Understanding in Primary and Secondary Education in Singapore

研究代表者
金井　里弥（Kanai, Satomi）

仙台大学・体育学部・講師

研究者番号：１０７３４８４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：シンガポールの初等および中等教育において異なる宗教間の理解の望ましい在り方がどのように構想され、実施されているのかを政策および教育内容の検証を通じて明らかにした。具体的には市民性教育と道徳教育とを兼ねた科目「市民・道徳教育」（Civics and Moral Education, CME）の廃止から、それに代わって新たに導入された科目「シチズンシップおよび人格教育」（Citizenship and Character Education, CCE）への転換によって、シンガポールにおける市民性教育がどのように転換したのか、また新たに展開されているCCEにおける宗教理解教育の課題を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、これから移民の受け入れ増加によって多様な宗教的バックグラウンドを有する外国人を受容することが求められる日本において、「宗教理解」を図る上で公教育がどこまで宗教を扱うことができるのかという限界性についての視点を提供する。

研究成果の概要（英文）：Moral Education and Citizenship Education in Singapore had a time of transformation in 2014. The subject of Civics and Moral Education (CME) was abolished and new subject Citizenship and Character Education(CCE) was introduced accordingly. This study clarifies the concept of inter-religious understanding in primary and secondary education in Singapore by analyzing the transformation from CME to CCE with focusing the education policy, its principles, and the syllabus and the contents of the class of CCE.

研究分野：比較教育学

キーワード：宗教理解　宗教教育　シンガポール　シチズンシップ教育

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

中東のイスラム圏における紛争や各地のテロ事件などを受けて、宗教理解の実践の場としての学校教育の重要性は強調されてきているが、学校教育での宗教理解に関する教育学の先行研究は、国内外を問わず未だ極めて蓄積に乏しい。加えて、数少ない先行研究は、政策的・制度的枠組みを視野に入れずに、特定の学校・学級の実践のみに焦点を当てており、その制度的課題を明確化するに至っていない。また、宗教学においては宗教理解の理論研究が蓄積されてきたが、それらの実践的検討は未だ十分になされているとはいえない。つまり、「学校教育における宗教理解」の問題は、教育学と宗教学とが重なり合う領域にありながら、いずれにおいてもその政策および実態の検証という点で多くの課題が残されている。

２．研究の目的

本研究の目的は、シンガポールの初等・中等教育における宗教理解教育の論理を検証することにより、多宗教社会における「宗教理解」の問題に公教育が果たし得る役割について一定の示唆を提示することにある。異なる宗教間の相互理解は、近年ますます重要視されているが、教育学および宗教学のいずれの領域においても、この問題を国家的な課題として捉え、公教育としての政策的・制度的課題と、学校現場での実践的課題の両方面から論じた研究が極めて乏しい現状にある。本研究は、こうした現状を踏まえ、多様な宗教の共生の問題に独立以来取り組んできたシンガポールをフィールドとし、世俗性を是とする公教育が「宗教理解」を促すうえでの課題と展望を導き出す。

３．研究の方法

平成 27 年度は、シンガポールの教育政策における宗教理解教育の理念と制度的枠組みを明らかにする。そのために、2014 年に新に導入されたシチズンシップ教育の改革理念と、そこで求められる宗教理解教育の理念を関連資料の分析から明らかにする。平成 28 年度は、カリキュラムにおける新たな宗教理解教育の位置づけと、そこに求められる望ましい宗教理解の在り方および実践方法を、小学校および中学校の教材分析によって明らかにする。平成 29 年度から平成 30 年度にかけては、シンガポールの小学校および中学校における宗教理解教育の実態を検証し、その制度的および実践的課題を浮き彫りにする。そのために、小・中学校の教員へのインタビュー調査を実施し、宗教理解教育が実際にどのように実施されているのかを明らかにしたうえで、学校が独自に形成している宗教理解教育の論理と、それに対する制度的および実践的課題を明らかにする。

４．研究成果

狭い国土の中で多様な宗教が共存するシンガポールにおいて、独立以来、多人種・多宗教の調和的な共生が目指されてきたが、その一方で、宗教間での摩擦が度々生じてきた。とりわけ 9.11 テロ事件や ISIS 台頭以降、非ムスリムによるムスリムへの中傷が繰り返され、それが度々メディア等で報道された。こうした背景から、2009 年にリー・シェンロン首相は建国記念日のスピーチにおいて「最も本能的で危険な断絶は人種と宗教である」とし、同国の宗教原則を宗教的寛容性、政教分離、政府の世俗性、国民の共通空間の維持、とすること、また宗教間対話による宗教理解の促進、宗教的調和の維持・向上が課題であることを明言した。

シンガポールにおける宗教理解教育の位置づけを捉えるうえで、図１をもとにシンガポールの学校教育全体を通じて生徒に身に付けさせるべき中核価値およびコンピテンシーと到達目標を確認する。

シンガポールの学校教育の中枢をなしている中核価値（Core Values）は、人格形成において重視されるべき中心的な価値として以下の 6 つをあげている。

- 「敬意」（Respect）：自他の自尊心の本質的価値を信じ、敬意を払う
- 「責任」（Responsibility）：自分、家族、コミュニティ、国家、世界に対する責任の認識
- 「誠実」（Integrity）：倫理原則をもって正義のために立ち上がる道徳的勇気を持つ
- 「気遣い」（Care）：優しさと思いやりをもって行動し、コミュニティや世界の向上に貢献する
- 「克服力」（Resilience）：困難に直面しても精神力でやり通す
- 「調和」（Harmony）：内面的な幸福を追求し、社会的な結束性を促す。多文化社会の結束と多様性を適切に理解する

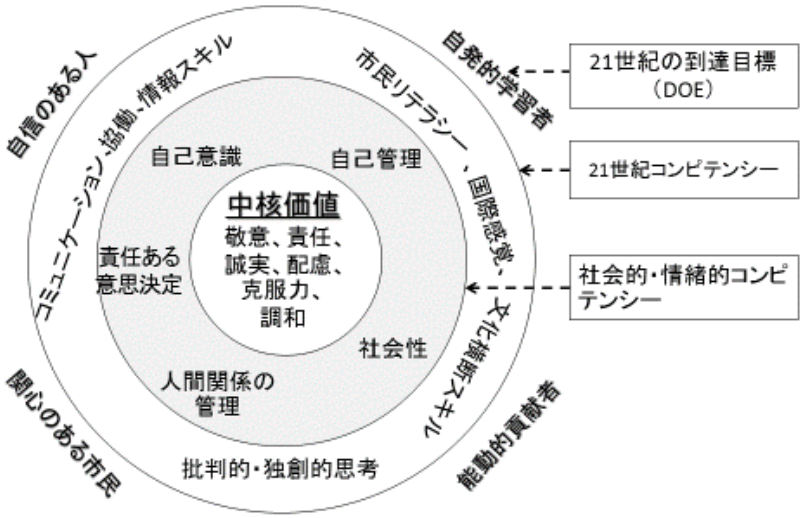

図１　生徒に身に付けさせるべき中核価値およびコンピテンシーと到達目標
出典)Student Development Curriculum Division, 2014 Syllabus: Character and Citizenship Education, Primary, Ministry of Education, Singapore, 2014, p.1.

また、学校教育修了までに身に付けるべき特性（属性）としての「教育の到達目標」(Desired Outcomes of Education、DOE）を以下の 4 点に集約している。

- 自信のある人（confident person)：善悪の鋭い感覚、適応力、レジリエンスを持ち、自分を知り、判断の際の洞察力があり、自立的かつ批判的に思考し、効果的にコミュニケーションをとる人
- 自発的学習者（self-directed learner)：自分の学習に責任を持ち、疑問を持ち、省察し、辛抱強く学習を遂行する人
- 能動的貢献者（active contributor)：チームで効果的に活動し、イニシアティブを発揮し、リスクを推定することができ、革新的で卓越性に向けて励む人
- 関心のある市民（concerned citizen)：シンガポールにルーツを持ち、市民としての強い意識があり、物事に精通し、周囲の人々の生活をよりよくするために活躍する人

更に、OECD などが掲げる 21 世紀に求められるリテラシーやコンピテンシーを反映する形で、シンガポール版の「21 世紀コンピテンシー」（21st Century Competencies）として以下が設定されている。

- 市民リテラシー、国際感覚、文化横断スキル：世界的視野で多様な人々と協働すると同時に、国家的課題にも精通し、シンガポール人としての誇りをもってコミュニティに貢献する
- 批判的・独創的思考：失敗や困難を恐れずに批判的に思考、判断し、学び、探求し、独創的に考えることを求める
- コミュニケーション、協働、情報スキル：有用な情報を見分け、サイバースペースでのリスクを管理し、倫理的に振る舞う。また、集団の目標に向けて他者と敬意をもったマナーで協働し、自分のアイデアを明確かつ効果的に伝える

これらを踏まえて、デザインされた学校教育のカリキュラムにおいて、宗教理解に関する主な取り組みとして位置付けることができるものは以下であった。

- 「市民・道徳教育」(Civics and Moral Education, CME）の教科における「調和」の単元が宗教理解学習を含む
  …宗教間の理解のあり方を具体的に学ぶ取り組みを推奨
- 「社会科」(Social Studies）における多宗教社会の問題と課題についての単元
- 「国民教育」の行事を通した人種的・宗教的多様性についての体験的な学び

このうち、CME は 2014 年に廃止され、これに替わって新科目の「市民性・人格教育」（Citizenship and Character Education, CCE）が導入された。この CME から CCE への移行は、能力主義的教育制度下において学力の偏重を避け、価値と人格の教育を中心とするための教育システムの再構築を意味していた。これにより、国民教育、シチズンシップ教育、課外活動における様々な取り組みはすべて CCE の枠組みに包含され、CCE は、教科ごと、プログラムごと

に取り組まれてきた道徳教育、市民性教育を統合するシステムとして構想された。

CCE の到達目標としては、①個人の幸福と自己効力感を得るための自己認識と自己管理スキルの応用、②誠実に振る舞い、道徳的原則を守った責任ある決断をする、③社会意識を持ち、相互尊重に基づく建設的な関係性を築き、維持するために対人スキルを用いる、④レジリエントになり、試練を好機に変える能力を持つ、⑤ナショナルアイデンティティに誇りを持ち、シンガポールに帰属意識を持ち、国家建設に参画する、⑥シンガポールの社会・文化的多様性を重んじ、社会的結束と調和を促進する、⑦他者を気遣い、我々のコミュニティと国家の進歩に積極的に貢献する、⑧知識と責任感を備えた市民としてコミュニティ、国家、そしてグローバルな問題を考え、対応する、以上の 8 点が掲げられており、全体として広汎な 21 世紀コンピテンシーに対応したスキルや実践力を重視していることが分かる。

CCE のカリキュラムは「自己」、「家族」、「学校」、「コミュニティ」、「国家」、「世界」の 6 つの領域で構成され、このうち宗教理解教育は「コミュニティ」の中で展開されている。「コミュニティ」の領域における宗教理解学習の関連項目は、以下の通りである。

- 知識
  【文化と慣習】宗教的式典と慣習の多様性、食べ物の慣例、物語の理解
  【社会的結束と調和】異なる人種、文化の人々との交流、敬意を払う方法の理解
- スキル
  【生産的な人間関係の形成と維持】異なる人種、文化の人々への気遣いや配慮、敬意
  【視点】他の社会文化的集団の友人に配慮し、彼らの立場で考える
- 価値
  - ✧ シンガポールの食べ物、文化的祭典とその多様性、礼拝施設、異なる社会文化的集団の慣習や物語への敬意
  - ✧ 他者との調和
- 姿勢
  - ✧ 公平性、多様性への感謝、他者への共感、共有、他者の優先、異なる人々を大切にすること

CCE における宗教理解教育の内容を CME と比較した場合、授業で扱う事項に大きな変更点は見られず、CME で宗教的調和を促すために重視されてきた以下の点が踏襲されていた。

- 宗教的祭典、慣習の理解
- 異なる宗教の尊重、敬意の払い方
- 異なる宗教の共通性
- 宗教団体間の協働による調和の促進の理解

両者の構想における違いとして、CCE はインクルーシブ社会の構築を前提とし、はじめて無宗教者の存在を想定した教育内容がデザインされるという転換が見られた。しかしながら、無宗教者を想定した教育内容については、各宗教の差異を尊重することを学ぶ単元において、無宗教者にも敬意を払う必要があることを教員から伝えるのみに留まっていた。そのため、そもそも信仰を持たない児童・生徒が「宗教」や「宗教を信仰する」という行為をいかにして理解し得るのか、あるいはどのように解釈し、その行為を認めるのかという点については言及されていない。

宗教理解教育では、シンガポールの主要な 6 宗教とされる仏教、キリスト教、イスラム、道教、ヒンドゥー教、シク教に焦点が当てられ、それらの宗教の特徴を捉えて理解し、敬意を払う姿勢を学ぶことが目指されている。そのため、宗教の多様性を学ぶということよりもむしろ、シンガポール社会に資する各宗教の特定の慣習や価値観を理解することに重きが置かれており、このことは宗教理解のステレオタイプ化を招く危険性をはらんでいる。同一の宗教を信仰する者同士においても、その信仰の程度やスタイルなどは多様であり、そうした宗教そのものの多様性のみならず、宗教を信仰する人々の多様性の理解という点に、シンガポールにおける今後の宗教理解教育の課題が見出せる。

５．主な発表論文等

〔学会発表〕（計　３　件）

① 金井里弥「シンガポールにおける教員の職能成長と教員養成」、全国私立大学教職課程協会第 38 回研究大会、2018
② 金井里弥「シンガポールにおける「市民・道徳教育」から「人格・市民性教育」への転換－宗教理解学習の内容に着目して」日本比較教育学会、2017
③ 金井里弥「シンガポールにおける「市民・道徳教育」から「人格・市民性教育」への転換－宗教理解学習の内容に着目して」日本比較教育学会、2015

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。